

筑波大学新聞

第303号
 編集責任 筑波大学新聞
 編集代表 福岡直樹
 TEL: 029(853)2040・6699
 E-mail: shinbun@sakura.cc.tsukuba.ac.jp
 月刊
発行所 筑波大学
 茨城県つくば市
 天王台1-1-1

紙面から
 グロハル人材育成事業 文科省の採択受ける 2
 オリエンテーリング 本学キャンパスで初開催 5
 柔道・全日本ジュニア 永瀬、小寺が優勝 8
 女子陸上 総合4連覇・駅伝で大会新 9
 院生アレンセントル 自身の研究を語る 11
 第38回学園祭 テーマは「筑波協奏」

ミニ特集 3
附属図書館特集 図書館を支える人
特集 6,7
 移行直前 2学期制の全容に迫る

ロンドンパラリンピック 本学関係者活躍する



義足のアスリート
鈴木徹 さん

2012ロンドンパラリンピックが8月29日から9月9日まで開かれ、競泳女子100メートルの秋山奈奈さん(平成17年度附属盲育学校高等学校卒)が金メダルを獲得するなど、本学関係者が活躍した。本紙では、本学の現役生・卒業生、鈴木徹さん(平成15年度体育専門学群卒)の走り高跳び、4×100メートルリレーで4位に入賞した山田拓朗さん(体専3年)の競泳男子50メートル自由形で4位に入賞の2人にインタビューした。山田さんは開会式で旗手の木村敬一さん(平成20年度附属視覚特別支援学校卒)のサポート役も務めた。(12面「Who's Who」に山田さんの記事)

選手と指導者2つの面

「世界で3番目と4番目に挑戦したい」と鈴木さん。結果については語る。では全然違う。再度メダルはロンドンパラリンピックの結果について語る。

「右足を失った」と話す。右足を失ったのは、競技中、右足から骨が飛び出した。治療もななく、卒業式の翌日に右足を失った。

当時を振り返り、鈴木さんは「それほどショックには感じなかった」と話す。「右足を失ったのに、大学からは入学を取り消されなかった。大学の先輩からは『いつ来るんだ』と連絡があった。競技者として戻るのが道しかなかった」と語る。

また、ハンドポールをもう一度するためにリハビリを始めた。陸上もその一環だったが、着々と実力を付け、わずか3カ月でシドニーパラリンピックの走り高跳びに出場。「運よく行けてしまった大会。まだ早かったと思う」と語る。

アテネ、北京パラリンピックも走り高跳びで出場し、メダルを狙ったが届かなかった。けがをしていた左ひざを手術し、万全の状態に達したロンドンパラリンピックも4位に終わった。「4度出場し、メダルを取れなかった。リオパラリンピックではメダルを取りたい」と語る。

ハンドポールの指導者としても活躍する。2009年に知人の誘いで駿河台大男子ハンドボール部監督に就任し、今年10月14日に2部昇格を決めた。「2部で2位以内に入れば1部昇格インカレ出場を狙える。達成して、筑波大と対戦したい」と話す。(二宮健太(社会学類))

細菌感染が原因で発症する敗血症について、発症をコントロールするたんぱく質を発見した。筑波大学医学部医療系(医療系)の研究チームが7月に公表した。死亡率が非常に高く、世界中で年間100万人以上が死亡する敗血症の予防と治療につながる成果として注目されている。

敗血症の発症制御たんぱく質を発見 予防・治療への応用に期待

白血球は免疫細胞(肥満細胞)によって集められ、細菌を死滅させるが、研究チームは免疫細胞の表面にあるたんぱく質「MAIR-1」に注目。このたんぱく質が、逆に免疫細胞の働きを抑制する性質があることを、マウスを用いた実験によって突き止めた。

同チームによると、腹膜炎による敗血症を発症させたマウスに「MAIR-1」を注射すると、3日後の生存率は注射しなかったマウスに比べて大幅に上昇した。今後、人間への応用が期待されている。

筑波教授は「死亡率が数倍下がるだけでも数万人の命が救える。これからは研究を続けて患者さん一人一人でも多く救いたい」と今後の抱負を語った。

本学技術で農業振興

本学と茨城県行方市は、10月3日、「農業・食と健康の共同研究に関する連携協定」を締結した。同市は、

「健康」をテーマに生命環境系と協力し、市内で生産する野菜でメニューを作るなど、地域活性化事業を進める。

行方市は60〜70品目の野菜を作る全国有数の農業地域で、人口の約40%が農業に従事している。だが高齢者の割合が高く、医療費がかさむなどの問題も抱えている。このため、今回の協定

油を生む藻類 実用化に向け実証実験 耕作放棄地を有効活用

渡邊信教授(生物系)による農地を利用した藻類バイオマスエネルギー実用化に関する実証実験が、10月6日から3日間開催された。10月8日の3日間で開催された。6、7日はあいにくの雨。雨天時は屋外の多くの模擬店が運営中止を余儀なくされた。野外ステージでの企画は、一部時間や場所を空けての実施となった。最終日の8日は一転して晴天に恵まれ、3日間で約3万人の来場者が訪れた。

多くの模擬店がベテスタリアンデッキを中心に軒を連ねた。全国各地の名物を出店する県人会や、留学生が世界各地の料理を振る舞う留学生名店街には普段は味わえない料理が並び、訪れた来場者が長蛇の列を作った。

今年のテーマは「筑波協奏」。筑波という土地に関わる全ての人々

国際戦略総合特区の取組の一環。同特区制度では規制緩和や税の控除を通じて、科学分野の先進的取り組みを推進している。

渡邊教授は、太陽光や水中の有機物から油を生み出す藻類を研究している。藻類はトウモロコシなどの他の

バイオマスエネルギーに比べ、栽培面積あたりの油の生産量が非常に多い。また培養に生活・産業排水を利用するため、環境にも配慮した新たなエネルギー資源として期待されている。

実証実験では、藻類を大量に培養し、収穫したものを濃縮。不純物を取り除いた後、油が抽出される。水田は水を利用しやすい、ある程度の広さもあり、藻類培養にとって理想的な環境。耕作放棄地を用いるため土地を有効活用できる。藻類を研究している。藻類はトウモロコシなどの他の

「実験が成功すれば、3年後には、利用農地を現在の2秒から300秒まで広げる予定。渡邊教授は「将来的には日本各地の耕作放棄地を利用し、藻類から生み出した油を社会のために役立てたい」と語った。

用も容易だ。しかし実験では油を取り出すために、収穫した大量の藻類を濃縮する施設を水田に併設する必要があるが、これが現在の農地法に抵触していた。この問題が特区制度の特例措置によって解決され、今回の農地での実証実験開始となった。

実験が成功すれば、3年後には、利用農地を現在の2秒から300秒まで広げる予定。渡邊教授は「将来的には日本各地の耕作放棄地を利用し、藻類から生み出した油を社会のために役立てたい」と語った。

渡邊信教授(生物系)による農地を利用した藻類バイオマスエネルギー実用化に関する実証実験が、10月6日から3日間開催された。

10月8日の3日間で開催された。6、7日はあいにくの雨。雨天時は屋外の多くの模擬店が運営中止を余儀なくされた。野外ステージでの企画は、一部時間や場所を空けての実施となった。最終日の8日は一転して晴天に恵まれ、3日間で約3万人の来場者が訪れた。

多くの模擬店がベテスタリアンデッキを中心に軒を連ねた。全国各地の名物を出店する県人会や、留学生が世界各地の料理を振る舞う留学生名店街には普段は味わえない料理が並び、訪れた来場者が長蛇の列を作った。

今年のテーマは「筑波協奏」。筑波という土地に関わる全ての人々

約3万人が来場 雨天にも関わらず大盛況

が、和音を奏できるように、双峰祭の魅力発信してほしい、という願いが込められている。そのテーマにふさわしく、笑い声が、歓声が、学園祭というステージで美しいハーモニーを奏でた3日間となった。(関連記事は9、10・11面)

後夜祭でパフォーマンスを魅せる応援部WINS

筑波2012 学園祭中、人間の系学系棟前に留學生の模擬店が並び、フォーやドイソ風ソーセージ…。エスニックな雰囲気の中で、ふと学生宿舎時代のある出来事を思い出した▼同じ階に住んでいたバン格拉ディッシュからの留學生のことだ。ほとんど話す機会はなかったが、冬のある日、共同調理室でカレーを作る彼と出会った。おいに作られ、思わず声をかけた。「一口いただけませんか」▼食べた後、彼の話を聞いた。日本に憧れ来日したことが、日本大學生と交流がなかった。帰国の日が近いという。もって日本の學生と話したかった。彼の言葉が胸に残る▼昨年度の本学の學生実態調査には「日本人學生のグループには留學生が入れない雰囲気がある」などの意見が寄せられた。私達は留學生との間に知らぬ間に「壁」を作っているのではないかな。一方、留學生側はどうか。学内で留學生グループをよく見る。母国語で話す様子は楽しげだが、その中に日本人學生がいるケースは少ない。彼らも無意識に「壁」を作っているのだろうか▼本学の留學生総数は5月1日時点で1681人。留學生を受け入れるだけでなく、日本人學生と留學生それぞれの持ち味が、カレーの香辛料のようにうまくブレンドされるのが理想だ。そのためにもまずは声をかけ壁を壊そう。きっかけは何でもいい。

グローバル人材育成事業 国際的なキャンパスを目指す

学士・修士の一貫教育へ

文部科学省が実施する「グローバル人材育成推進事業(特色型)」に本学が申請していた「ローカル最適なグローバル人材育成・地域研究イノベーションプログラム」が9月24日、承認された。

「グローバル人材育成推進事業」は、グローバル化を目的とした体制整備を推進する大学に対して、最大5年間の財政支援を行うもの。日本人学生が世界で活躍するための力を養うことを目的としている。対象は全国の国公私立大学で、今回採択されたのは42校。

本学が申請していた同プログラムは、学士課程と修士課程を一貫した教育プログラムだ。そのため学類生でも大学院科目の履修が可能になる。同プログラムでは、学士課程の3年次から留

学先を決定し、2年間の地域の言語と地域研究科目を中心に学習する。そして、修士課程入学後に協定校への留学や国際インターンシップを行うという。

これにより高度な地域専門性を備え、卒業後もビジネスの現場などで即戦力となるような人物を輩出する。

筑波大学人間系コロシアム

子どもの「ウソ」を論じる 子育てに関する質問も

教育学、心理学、障害科学の第一線で活躍する研究者を招いて行われるセミナー、筑波大学人間系コロシアムが、9月26日に総合研究棟A110で行われた。主催は筑波大学人間系研究戦略委員会。学際的研究の推進を目的に今年度から企画され、年6回程度の開催を予定している。

2回目となる今回は、発達心理学、認知心理学などを専門とする本学の内田伸子監事が「子どものウソは嘘か?記憶・想像、そして語りのメカニズム」をテーマに講義を行った。学

内外から100人近くの参加者が来場し、会場はほぼ満席となった。時には笑い声が漏れ、講義は終始和やかな雰囲気であった。

同監事は、まず想像力の発達について説明。そして、意図的か悪意のある偽りを「嘘」と表現した。一方で意図的ではない偽りを「ウソ」と表現し、子どもの「ウソ」は「嘘」ではないと結論付けた。

また、幼少期のしつけ方と子どもの学力との関係についても論じ、「幼少期に親が子どもの主体性を大事にした関わり方をしているかが大切」と述べ、講義

イランで発掘調査を開始 人類拡散ルートの解明へ

常木教授ら研究チーム

常木寛教授(人文系)ら本学の研究グループが、昨年11月から、イラン南部アルサンジャンの洞窟遺跡で「人類の起源を探ること」を目的に発掘調査を進めている。

従来、アフリカを起源とする現在の人類は、シナイ半島(エジプト)・ユーラシア大陸という「北回りルート」で同大陸に進出したと考えられていた。だが近年、このルートではなく、アフリカから紅海をアラビア半島・ペルシア湾を

「南回りルート」で進出し、そこからユーラシア大陸の東西に拡散。現在の人類につながると思われる新仮説が注目されている。発掘では、この新仮説の検証が期待されている。

イラン政府は長年調査を許可していなかったが、常木教授ら本学の研究グループはイラン政府から正式に許可を得ることに成功。イラン政府と共同で、アルサンジャンの中期旧石器時代の遺跡の調査を始め、これまで3回の発掘を行った。



イランでの発掘調査の様子

新仮説の証明には、7、8万年前、南回りルートで進出したグループがここで居住していたことを証明する必要がある。人骨の発見が鍵。また、そこで発見される石器が、アフリカ起源の特徴を有していることも必要になっている。

今回の調査では、水飲み場遺構などの高度な土木工事の跡なども検出している。

の構築に期待が高まっている。

今までは就職活動や卒業時期に遅れが出ることを懸念し、留学や修士課程入学に積極的ではない学生もいたが、このプログラムでは5年間の早期修了も視野に入れており、従来の学生の懸念が解消されることも期待されている。なお、1期生の選抜は来年度末から行うという。

観光案内所「北条ふれあい館」 大正時代の店蔵を補修し案内所に 本学教授や学生団体も協力

今年5月に竜巻の被害を受けた「北条ふれあい館」が、9月29日、観光案内所「北条ふれあい館」がリニューアルオープンした。本学の安藤邦廣教授(芸術系)が補修工事に携わったり、同地区で活動を行っている学生団体「筑波山麓地域づくり研究会(通称チームごじゃっぺ)」が清掃や準備を行うなど、約5カ月ぶりに営業再開となった。

同地区は今年5月に発生した竜巻により甚大な被害を受けた。商店街にあった旧案内所も全壊し、取り壊しとなった。そのため新たな観光案内所として、大正時代の末期に建築された元呉服店の「田村家店蔵」が利用されることになった。竜巻により瓦や窓ガラスが飛び散り、建物に傾くなどの被害を受けたが、安藤教授率いるプロジェクトチームの調査などにより、屋根に補修を加えれば使用できることが判明。復旧工事などを進め、29日のオープンの日を迎えた。

安藤教授は「学際的探究は学生や院生にとっても大事。この講義は市民の方々にしても開かれているので、専門的な知識を伝えていきたい」と語った。

内田監事は「学際的探究は学生や院生にとっても大事。この講義は市民の方々にしても開かれているので、専門的な知識を伝えていきたい」と語った。

区で活動を行っている学生団体「筑波山麓地域づくり研究会(通称チームごじゃっぺ)」が清掃や準備を行うなど、約5カ月ぶりに営業再開となった。

同地区は今年5月に発生した竜巻により甚大な被害を受けた。商店街にあった旧案内所も全壊し、取り壊しとなった。そのため新たな観光案内所として、大正時代の末期に建築された元呉服店の「田村家店蔵」が利用されることになった。竜巻により瓦や窓ガラスが飛び散り、建物に傾くなどの被害を受けたが、安藤教授率いるプロジェクトチームの調査などにより、屋根に補修を加えれば使用できることが判明。復旧工事などを進め、29日のオープンの日を迎えた。



リニューアルオープンした「北条ふれあい館」

農産物、北条米を原料に用いた「北条米スクリーム」などの物産品販売などを行っている。開館日は土日、祝日の10時~16時。問い合わせ先は <http://www.tsubakuba-hojo.jp>。

北条地区では、11月3~4日にかけて「秋の北条市」が開催される。案内所の開放のほか、同地区の史跡や文化財をめぐる「秋の北条歴史探訪」などさまざまな催しが行われる予定。

筑誕

2013年に本学が開学40周年を迎えることを受け、筑波大学40周年記念「筑誕」(つくたん)が11月3日(土)、THK筑波放送協会と本学の共催で開催される。

学内サークルによるパフォーマンスや、THKによる企画「学内の「すごい人」紹介企画」が行われる。入場は無料。14時開演、会場は大学会館講堂。問い合わせ先 tkb40th@hkwweb.info

元本学講師 大島美穂さん講演

元本学講師の大島美穂さん(現在津田塾大学学芸学部国際関係学科教授)の講演が11月25日(日)にホテルグランド東雲(つくば市小野崎)で行われる。「北極海の油田開発と国際政治―環境、資源、地域」をテーマに津田塾大学同窓会茨城支部が開く公開講座。

参加費は300円。13時30分から15時まで。参加には事前申込みが必要で、申込みは11月20日まで。申し込み・問い合わせは津田塾大学同窓会茨城支部 FAX 0297-57-0049、メール susuda_ibaraki_secretariat@yahoo.co.jp

競技力の向上を支援 科学的に研究開発を行う

「チーム「ニッポン」」マルチサポート事業 研究開発プロジェクトの活動概要と経過報告の記者会見が、9月19日に本学東京キャンパス文京校舎で行われた。

このプロジェクトは文部科学省が、日本国内の競技者やコーチの要望に応え、競技力向上を支援していくことを目的に、2010年

「チーム「ニッポン」」マルチサポート事業 研究開発プロジェクトの活動概要と経過報告の記者会見が、9月19日に本学東京キャンパス文京校舎で行われた。

このプロジェクトは文部科学省が、日本国内の競技者やコーチの要望に応え、競技力向上を支援していくことを目的に、2010年

に判断できるため、コンディショニングを整え、効率的な練習ができることになり、今後(選手)のパフォーマンス向上に貢献していきたい」と語った。

統括責任者の阿江通良副学長(教育担当)は、「現場の要望に応じた開発を行っている留学生と英語で対話しながら、留学生の指示に従ってロボットを操作したり英語で自己紹介をしたりするなど、楽しみながら英語に触れた。

この授業を応用して、11月にはオーストラリアとつくば市をつないだ実験が行われる予定だ。海外にロボットを置き、国内から遠隔操作することによって、子供たちは海外に住む人と交流できる。

田中准教授は「子供たち

に判断できるため、コンディショニングを整え、効率的な練習ができることになり、今後(選手)のパフォーマンス向上に貢献していきたい」と語った。

統括責任者の阿江通良副学長(教育担当)は、「現場の要望に応じた開発を行っている留学生と英語で対話しながら、留学生の指示に従ってロボットを操作したり英語で自己紹介をしたりするなど、楽しみながら英語に触れた。

この授業を応用して、11月にはオーストラリアとつくば市をつないだ実験が行われる予定だ。海外にロボットを置き、国内から遠隔操作することによって、子供たちは海外に住む人と交流できる。

田中准教授は「子供たち

に判断できるため、コンディショニングを整え、効率的な練習ができることになり、今後(選手)のパフォーマンス向上に貢献していきたい」と語った。

統括責任者の阿江通良副学長(教育担当)は、「現場の要望に応じた開発を行っている留学生と英語で対話しながら、留学生の指示に従ってロボットを操作したり英語で自己紹介をしたりするなど、楽しみながら英語に触れた。

この授業を応用して、11月にはオーストラリアとつくば市をつないだ実験が行われる予定だ。海外にロボットを置き、国内から遠隔操作することによって、子供たちは海外に住む人と交流できる。

田中准教授は「子供たち

に判断できるため、コンディショニングを整え、効率的な練習ができることになり、今後(選手)のパフォーマンス向上に貢献していきたい」と語った。

統括責任者の阿江通良副学長(教育担当)は、「現場の要望に応じた開発を行っている留学生と英語で対話しながら、留学生の指示に従ってロボットを操作したり英語で自己紹介をしたりするなど、楽しみながら英語に触れた。

この授業を応用して、11月にはオーストラリアとつくば市をつないだ実験が行われる予定だ。海外にロボットを置き、国内から遠隔操作することによって、子供たちは海外に住む人と交流できる。

田中准教授は「子供たち

に判断できるため、コンディショニングを整え、効率的な練習ができることになり、今後(選手)のパフォーマンス向上に貢献していきたい」と語った。

統括責任者の阿江通良副学長(教育担当)は、「現場の要望に応じた開発を行っている留学生と英語で対話しながら、留学生の指示に従ってロボットを操作したり英語で自己紹介をしたりするなど、楽しみながら英語に触れた。

この授業を応用して、11月にはオーストラリアとつくば市をつないだ実験が行われる予定だ。海外にロボットを置き、国内から遠隔操作することによって、子供たちは海外に住む人と交流できる。

田中准教授は「子供たち

に判断できるため、コンディショニングを整え、効率的な練習ができることになり、今後(選手)のパフォーマンス向上に貢献していきたい」と語った。

統括責任者の阿江通良副学長(教育担当)は、「現場の要望に応じた開発を行っている留学生と英語で対話しながら、留学生の指示に従ってロボットを操作したり英語で自己紹介をしたりするなど、楽しみながら英語に触れた。

この授業を応用して、11月にはオーストラリアとつくば市をつないだ実験が行われる予定だ。海外にロボットを置き、国内から遠隔操作することによって、子供たちは海外に住む人と交流できる。

田中准教授は「子供たち

に判断できるため、コンディショニングを整え、効率的な練習ができることになり、今後(選手)のパフォーマンス向上に貢献していきたい」と語った。

統括責任者の阿江通良副学長(教育担当)は、「現場の要望に応じた開発を行っている留学生と英語で対話しながら、留学生の指示に従ってロボットを操作したり英語で自己紹介をしたりするなど、楽しみながら英語に触れた。

この授業を応用して、11月にはオーストラリアとつくば市をつないだ実験が行われる予定だ。海外にロボットを置き、国内から遠隔操作することによって、子供たちは海外に住む人と交流できる。

田中准教授は「子供たち

に判断できるため、コンディショニングを整え、効率的な練習ができることになり、今後(選手)のパフォーマンス向上に貢献していきたい」と語った。

統括責任者の阿江通良副学長(教育担当)は、「現場の要望に応じた開発を行っている留学生と英語で対話しながら、留学生の指示に従ってロボットを操作したり英語で自己紹介をしたりするなど、楽しみながら英語に触れた。

この授業を応用して、11月にはオーストラリアとつくば市をつないだ実験が行われる予定だ。海外にロボットを置き、国内から遠隔操作することによって、子供たちは海外に住む人と交流できる。

田中准教授は「子供たち

に判断できるため、コンディショニングを整え、効率的な練習ができることになり、今後(選手)のパフォーマンス向上に貢献していきたい」と語った。

統括責任者の阿江通良副学長(教育担当)は、「現場の要望に応じた開発を行っている留学生と英語で対話しながら、留学生の指示に従ってロボットを操作したり英語で自己紹介をしたりするなど、楽しみながら英語に触れた。

この授業を応用して、11月にはオーストラリアとつくば市をつないだ実験が行われる予定だ。海外にロボットを置き、国内から遠隔操作することによって、子供たちは海外に住む人と交流できる。

田中准教授は「子供たち

附属図書館特集

図書館を支えるひと

普段何気なく使っている附属図書館。そこで受けられるサービスは主に、職員、ボランティア、大学院生の手によって提供されている。彼らは普段どんな仕事をしているのだろう。図書館のサービスを支える人々を紹介する。(中島佳奈 人文学類、原啓一郎、平嶋健人 国際総合学類)

職員

私たちが利用者はカウンターで対応する職員と関わることが多いが、それ以外にもたくさん職員が図書館の運営に携わっている。中でも、古典資料担当、選書担当、電子図書館担当それぞれの仕事の様子をのぞいてみた。

古典資料担当

古典資料の管理に携わっている山中真代さん(情報管理課)に話を聞いた。本学の図書館には、所蔵されている中で最も古い、奈良時代の「大智度論」を始め、貴重書が約9000冊、和装古書が約17万冊ある。その古典資料の整備・保存、電子化、展示企画の運営を行うのが古典資料担当の仕事だ。

電子図書館担当

電子図書館と聞くと、今話題の電子書籍を連想してしまうが、電子書籍の提供が業務ではない。電子図書館業務を担当する平田亮さん(情報管理課)によると、担当職員の主な仕事はウェブページ「筑波大学電子図書館システムTULIPS」の管理や、館内のパソコンの整備などだ。ネット環境の整備が多いが、「文系人間(自分)

大きく関わると。カビが生えにくい、湿度20度前後、湿度55%前後に書庫内を保ち、中に虫が入らないように注意すること。資料の劣化を防いでいる。しかし設備が古いため、急な停電で空調が止まることもしばしばあり、苦勞は絶えない。5月に起きた竜巻による全学停電のときに空調が止まったが、貴重書庫は外気の影響を受けにくい場所であり、資料は無事だったという。

古い資料を次へ伝える

貴重書が破損していたりして手当てが必要ない場合は、専門家に依頼して補修を行う。虫穴一つひとつに紙を埋めたり、本をバラバラにして裏打ちの薄い紙を貼ったりする。「貴重書はそれ自体が一つの情報源。外見も含め残す必要がある。補修するときには必ず元(の姿)に戻るのが大事で行うことが大事」と山中さんは話す。だが、ただ大事にしまっただけでなく、画像データとして利用できる電子化を進め、公開展示も行う。「長い歴史を持つ受け継がれている資料を、次世代も利用できるような伝えていきたい」。現在開催中の附属図書館特別展「明治時代の礼法はかたがてに伝えられたか」(10月末まで開催)も古典資料担当が企画したものだ。山中さんは今回の特別展は親しみやすくと、興味深いテーマ。ぜひ足を運んでもらいたい」と学生に呼びかける。

選書担当

選書を担当している高島恵美子さん(情報管理課)は図書館に新しく並ぶ図書を選ぶという、学生の学習研究にも大きく影響する仕事をしている。選書担当の職員は、新刊学術図書の選書を主にこなしている。人文科学、社会科学、自然科学など各分野ごとに班分けをし、それぞれ購入する図書を決める。基準は「一年以内に出版された図書で、学生の学習・研究に役立つもの」。各班で出版情報載っているカタログや書店からもらうチラシを見て、購入図書を決める。本を全て読むことはできないため、著者や出版社、目次、前書き、後書きなどを見て判断する。判断に困ったときは本学の教授に意見を聞いたり、他大学の購入状況を参考にすることもあるという。



古典資料の確認作業を行う山中さん

選んだ図書が使われるのか、必要な図書をそろえているのではないかという不安を抱えることもあるという。「専門家ではないので、悩んだらだらきがない。効率良く仕事をすることが必要のため、その兼ね合いが大変」。学生と直接関

学生目線の選書を

高島さんは学生に「職員も頑張っている図書を選んでいるので、ぜひ使ってください。学生のみなさんからの要望もお待ちしています」と話した。

ボランティア

本学は1992年、国立大学図書館として初めて図書館ボランティアの導入を決定。95年に「筑波大学附属図書館ボランティア」が発足した。その活動について、発足時から17年間活動に携わる大森久美子さんに話を聞いた。



特別展の内容について説明する大森さん

「ボランティアの主な活動は▽図書館の利用案内▽書架の整理▽視覚障害のある利用者への対面朗読...。本の場所が分からない利用者と一緒に本を探しに行くなど、きめ細かなサービスを提供できているのがボランティアの特徴。「気軽に聞けるといい声もいただきます」と大森さんは嬉しそうに話から好評だ。

きめ細かなサービスを提供

大森さんは日本文化紹介の一環として折り紙講習会も行っている。以前行った講習会で「折紙を折った後は、日頃、豊富な知識と経験を持つボランティアの人たちに、気軽に話を聞いてみてはどうか。」

図書館を支える「裏方」

パソコンを扱う理系の仕事を、苦勞しながらやっている感じだという。ウェブ関連の仕事以外にも、本学の博士論文や貴重書を電子化するという業務がある。貴重書の電子化は外部の業者に委託しているが、博士論文の電子化はほぼ手作業。論文を一枚一枚スキャナーで読み取らない存在だ。そんな縁の下の力持ちで

自分の経験を活かしサポート

昨年9月から中央図書館本館2階に設けられた学習支援スペース「ラーニング・スクエア」。レポートや論文の書き方に関する図書を集めた書棚や、学生の成果展示などを行う企画展示スペースなどがある。大学院生がパソコンの使い方や論文検索の方法など、さま

大学院生



留学生にパソコンの使い方を教える佐藤さん

さまざまな学習相談に対応するラーニング・アドバイザー「学生サポートデスク」を務めている佐藤良太さん(リスク3年)に話を聞いた。デスクを訪れる利用者の質問は、文献検索の方法や図書館の使い方、レポートの書き方や進路相談など多岐に渡る。また、すぐそばに全学計算機システムのパソコンが置かれているため、パソコンの使い方に関する質問も多い。佐藤さんは「進路やレポートの書き方に関する質問は、自分自身の経験をもとに学生にアドバイスできるように話す。学生サポートデスクは17時以降も対応しているため、長時間、利用者の活動が支援できるようになった。佐藤さんがこの仕事を始めたのは半年前。図書館の

反射鏡

今月のテーマ「私の世渡り術」

主体的に会話し 地域活性化

田名辺一至(比文2年)

「僕なんかの世渡り術なんて、聞きたい人はいるのか？」最初はそう思いました。私は「術」なんて呼べるもの、持ち合わせていません。若いうちの苦勞は買ってもらって、誰の言葉だったか、大變耳に痛い一言。私生活とは真逆で、必要ないものは買わずに、ここまで生きてきました。

そのように、基本深く考えずに生きているお氣楽、能天気、怠惰な人間ですが、それでも一つ大事にしていること、それが「幅広い世代、一人でも多くの」

「外からの活性化」は効果を出すのは簡単ではないのですが、実践に移しやすいという利点があります。内からの活性化は、とっかかりが難しい。そもそも地元住民が活性化している状態とはどんなことを指すのでしょうか？

私は、地域の人々と関わり、声を聞き、残していくことに、ヒントがあると信じています。多くの「経験」を聞き、会話をすること。それが我々の知識になるし、新たな発見へとつながります。観光という面を考えると、そこに住む人々の視点はやはり新鮮であり、それを記録し、伝えていけば、全く新しい観光名所が生まれるかもしれません。

私に世渡り術があるはずはない、地域の、普通に生活していれば話すことのないような方々との意思疎通にあるのだと思います。活動

「ヘルロー先端科学」をはじめとする科学記事を、私にさまざまな教授に取材した。例え話を上

「ヘルロー先端科学」をはじめとする科学記事を、私にさまざまな教授に取材した。例え話を上

人のつながりで 広い視野を養う

藤井郁香(工シス4年)

私が「世を渡る」上で一番大事にしていることは、人との繋がりにあります。私が筑波大学に入学して一番嬉しかったことは、一つのキャンパスに全員の学生がいるということでした。同じ学類の人とは共通の興味や関心があるので、気が合うことが多い。その人たちが一緒にいることが多くなってしまう。しかし、自分とは全く違う分野に興味があり、勉強している人と会話をすると、自分

「ヘルロー先端科学」をはじめとする科学記事を、私にさまざまな教授に取材した。例え話を上

「ヘルロー先端科学」をはじめとする科学記事を、私にさまざまな教授に取材した。例え話を上

「ヘルロー先端科学」をはじめとする科学記事を、私にさまざまな教授に取材した。例え話を上

「ヘルロー先端科学」をはじめとする科学記事を、私にさまざまな教授に取材した。例え話を上

「ヘルロー先端科学」をはじめとする科学記事を、私にさまざまな教授に取材した。例え話を上

「ヘルロー先端科学」をはじめとする科学記事を、私にさまざまな教授に取材した。例え話を上

真の弱さ認め 助けを借りる

千住のり子(PN)

私は昔を振り返ると、弱さを認め、助けを借りるという行為が、私にとっての弱さであり、それが私を強くしてくれた。私が社会の荒波を渡って行くには、どうすれば良いだろう。それは、私には知恵がなかった。才能だけで生きていくのは、どう考えても無理だった。どうする方法を思い付くことができなかった。私には、もはや体力がなかった。健康であればよかった。と矢張り、私に力を与えてくれた。私に力を与えてくれた。私に力を与えてくれた。

「ヘルロー先端科学」をはじめとする科学記事を、私にさまざまな教授に取材した。例え話を上

「ヘルロー先端科学」をはじめとする科学記事を、私にさまざまな教授に取材した。例え話を上

「ヘルロー先端科学」をはじめとする科学記事を、私にさまざまな教授に取材した。例え話を上

「ヘルロー先端科学」をはじめとする科学記事を、私にさまざまな教授に取材した。例え話を上

「ヘルロー先端科学」をはじめとする科学記事を、私にさまざまな教授に取材した。例え話を上

「ヘルロー先端科学」をはじめとする科学記事を、私にさまざまな教授に取材した。例え話を上

次号のテーマは 「我が相棒」です

連絡先

TEL 0266-8533-9999
e-mail shinun@sakura.cc.tsukuba.ac.jp

「ヘルロー先端科学」をはじめとする科学記事を、私にさまざまな教授に取材した。例え話を上

「ヘルロー先端科学」をはじめとする科学記事を、私にさまざまな教授に取材した。例え話を上

「ヘルロー先端科学」をはじめとする科学記事を、私にさまざまな教授に取材した。例え話を上

「ヘルロー先端科学」をはじめとする科学記事を、私にさまざまな教授に取材した。例え話を上

「ヘルロー先端科学」をはじめとする科学記事を、私にさまざまな教授に取材した。例え話を上

「ヘルロー先端科学」をはじめとする科学記事を、私にさまざまな教授に取材した。例え話を上

筑波時評



首藤もと子 日中国交40周年の今、日中関係は尖閣諸島をめぐる危険な状況にある。

尖閣諸島問題と愛国教育

日中双方が理性的な外交を

伝えている「中国固有の領土」の根拠とされる明時代の文書でも、実は尖閣諸島は「海防管轄範囲外」とされており、それが中国の管轄下であったことを示す記録はない。1461年に初命により刊行された『大明一統志』でも、尖閣諸島は明の「国外」とされている。

一方、日本側には、尖閣諸島がどこからの領土でもなく、長期間日本の管轄下であったことを示す文書や写真等がある。日清戦争より10年前の1885年に、福岡県出身で石垣島に支店を設けていた古賀屋四郎氏が八重山の漁民と尖閣諸島を探検した後、明治政府に同諸島の開拓を申請した。政府は尖閣諸島がかつて領有された歴史がないことを確認し、周辺各国にも照会して、1895年に閣議でその領土編入を決定した。清朝は異議を唱えなかった。その後、最盛期には魚釣島だけでなく、久場島、南小島、北小島でも古賀村の海産物加工の仕事場があり、1930年代後半に石

油の入手が困難になり、この絶海の島を去るまで、尖閣諸島には日本人が生活していた。その後、敗戦後の講和条約で、日本が領有権を放棄する領域のなかに、尖閣諸島は含まれていなかった。そのうえ、中国も台湾も1960年代末まで、尖閣諸島の領有権を主張したことは一度もなかった。むしろ、それが沖縄県の一部であると明記した中華民国の文書や教科書、中国の『人民日報』や地図等が存在している。

こうしてみると、尖閣諸島は「歴史的にも、国際法上も」日本の領土という日本政府の言い分には理がある。しかし、今回のような危機を招いた責任の一端は、日本側にもある。第一に、この海域に石油資源があると発表された後、台湾が領有権を主張し、続いて中国も領有権を主張するようになったが、1970年代以降日本は尖閣領有権をめぐり国内外に向けて、効果的な発信をほとんどしなかった。1971年以降の台湾の地図で、尖閣諸島は台湾領に書き換えられ、その後

1992年に中国が前述の領海法を定めたとき、日本が逐一抗議したことが不明である。少なくとも、国際社会に聞こえるような発信は何もしなかったと思う。外交センスのない国は滅びる。日本外交には、そうした真剣な危機感が欠如していたのではないだろうか。それ以外にも日本側の要因はいくつか挙げられる。

しかし、そうした要因はさておき、中国はすでに対日強硬路線に転じた。メディアや公教育等を駆使して「釣魚島は中国のもの」と教育宣伝する一方で、90年代初頭から「愛国教育」が創出した反日ナショナリズムは、今や巨大な怪物となって政府に対日強硬策を求め、中国は尖閣奪取に向けて退路を断ったようである。しかし、都合の悪いことは国民に知らせず、自国の「核心的利益」や「海上生命線」を強硬に追求していく体制は破綻し、滅びる。それは日本が歴史的に実証済みである。今のように中国が日本の生産

流線を分断していけば、早晚双方とも敗者になり、世界の安定と発展をも大きく損なうことになる。破滅に至る道を回避する理性的な外交術が日中双方に求められる。(人社会・教授)

「ヘルロー先端科学」をはじめとする科学記事を、私にさまざまな教授に取材した。例え話を上

「ヘルロー先端科学」をはじめとする科学記事を、私にさまざまな教授に取材した。例え話を上

記者の声



二宮健太 取材の際、研究者の説明を「分りづらい」と感じる

科学を伝え、支える

「ヘルロー先端科学」をはじめとする科学記事を、私にさまざまな教授に取材した。例え話を上

「ヘルロー先端科学」をはじめとする科学記事を、私にさまざまな教授に取材した。例え話を上

第33回筑波大学オリエンテーリング大会

本学キャンパス内で初開催



チェックポイントを回る参加者

全国各地から参加者集まる 初心者向け体験会も

オリエンテーリング愛好会が企画・運営する「第33回筑波大学オリエンテーリング大会」が9月30日、本学キャンパス内で行われ、福島県など全国各地から...

通過しつつ、ゴールを目指しタイムを競う競技。同大会では50棟前や石の広場付近にチェックポイントが置かれ、参加者はキャンパス各地を駆け回った。MAクラス(男子の部)では栃木県鹿沼市の藤沼崇さんが、Wクラス(女子の部)では横浜国立大学の山本紗穂里さんが優勝した。

院生 × 教員 × 社会人交流会

社会人が院生にプレゼン 進路選択についての質問も

社会人や教員との対話を通して、本学院生の進路選択に役立ててもらおうとすることを目的とした「院生×教員×社会人交流会」が、9月15日につくば市内で開催された。同イベントは、今回で3回目。染谷信之さん(平成20年度生物科学類卒が企画・運営している。元つくば市...

議の五十嵐立青氏(平成19年度国際政治経済修了)岡村直道教授(基礎医学系)のほか、OBOG約40人、院生約20人が参加した。交流会では教員、社会人、院生が仕事や進路選択、研究をテーマに、プレゼンテーションを行った。五十嵐立青氏は、2010年にNPO法人「つくばアグリチャレンジ」を設立。同団体による、障害を持つ人の雇用と農家の担い手不足の問題を解決する、「ごきげんファーム」の経営について紹介した。イベントに参加した院生は社会人、教員に対して、さまざまな質問を積極的に投げかけた。

また、29日にはつくばフォーク村やときめき太鼓塾など本学団体が演奏を発表し、会場を盛り上げた。また、29日にはつくばフォーク村やときめき太鼓塾など本学団体が演奏を発表し、会場を盛り上げた。



種類豊富な地ビールを楽しむ来場者

本学生が中心となり運営 3000人がビールを楽しむ

県内外の地ビールを集めたイベント「つくばクラフトビアフェスト2012」が9月28・29日、つくばセンター広場(ニューメントプラザフォラム)で、つくば市吾妻で開かれ、2日間で3000人以上が来場した。30日も開催予定だったが、台風の影響で中止となった。

盗難被害多発 就寝時にも 施錠の徹底を

つくば市内で、鍵をかけたまま寝ている本学の女子学生のアパートに何者かが侵入し、財布などを盗む事件が相次いで起こった。学生生活課は「同様の状況で過去には暴行事件に発展したケースもある」と施錠の徹底を呼びかけている。

池邊 八洲彦氏(いけは・やすこ)本学名誉教授 9月15日に死去、78歳。 岩崎 庸男氏(いわさき・つねお)本学名誉教授・元本学副学長 9月26日に死去、72歳。

原点 GEN-TEN

私は2006年に『帝國日本の英文学』という著書を出しました。これは、19世紀末から20世紀半ばにかけて、(脱亜入欧)と(西欧)近代の超克というスローガンを掲げていた日本において「欧」(ヨーロッパ)の言語や文化を学ぶための制度「英文学」がどのような役割を果たしたのかを論じたものです。例えば、1916年、岡倉由三郎という人は、有名

英文学と日本の関係探る 昔も今も変わらぬ信念

アジアの人々よりは格上である「欧」をアピルし、また、いわば誌上で「脱亜入欧」を演じたのです。また、1940年、中野好夫という人は、コンラッドという作家の小説『闇の奥』(アフリ



齋藤 一

に思い悩みました。しかし、プレッシャーという不安といえますか、そういうものに負けずに研究を続けることができたのは、「目の前にヤバイ資料がある」でもそれを

め、いろいろな意味で「興味深い」資料を調べています。要するに、昔も今も研究態度に変化はありません。私の研究の原点は、1995年のあの決断だったのです。

さいとう・はじめ 修士(教育学、筑波大学大学院、1995年3月)、修士(文学、筑波大学大学院、1997年3月)、博士(文学、筑波大学大学院、2005年3月)。専門はイギリス文学(19・20世紀小説)、英文学制度論。



和田 尚明

本書は、『二十歳の原点序章』『二十歳の原点』の『二十歳の原点』である。

自分と向き合いたい人のための一冊 二十歳の原点

高野悦子 著 人生において多くの本に巡り合えることは幸せなことだと思ふ。本は自身では体験しえない経験を提供してくれる場所でもある。私もさまざまな本と出会ってきたが、なかでも忘れられないほどの衝撃を受けた一冊が、この『二十歳の原点』である。

私は自殺を薦めているのではないし、本書のどこどこに描写がある自堕落な生活や自己否定的・体制否定的な考え方を移す。女性であることと当時の社会的な風潮と

の狭間で葛藤する。二ヒリスをもち合わせ、自分の弱さを自覚し、人生という実体のない影におびえる。しかし、そういった多面性こそが、彼女自身が日記に記している「人間は不合理な存在である」との証であり、だからこそ共感せずにはいられないのだと思える。自らの信念と正義を貫こうとする著者の姿勢は、今の自分の生き様を形成するのに貢献している、あるいは、似ている部分があったからこそ共鳴したのだと、今回この記事を書くにあたって読み返してみても改めて感じた次第である。(新潮文庫 452円)

(人) 社系 准教授

来年度から移行 2学期制の全容に迫る

本学は2013年度から2学期制に移行する。検討委員会が2002年度に設置されて以来、10年ごしの実現となる。だが、今なお学生への周知が徹底しているとは言いがたい。本特集では、2学期制移行の全容を紹介し、私たちの生活がどのように変わるのかを明らかにする。(鈴木拓也、人文学類、二宮健太、社会学類、加藤茂行、地球学類、中島光夫、情報科学類、小串尚也、情報メディア創成学類)

「6区分の2学期制」へ移行 10週授業・15週授業が並立

月	4~5月	6~7月	8~9月	10~11月	12~1月	2~3月
学期区分	春学期			秋学期		
授業実施モジュール(5週単位)	春Aモジュール	春Bモジュール	春Cモジュール	秋Aモジュール	秋Bモジュール	秋Cモジュール
開講される授業	10週完結		5週完結	春学期と同じ運用を行う		
	15週完結			入試、学位審査など		

2学期制になっただら?

「6区分の2学期制」に移行する。検討委員会が2002年度に設置されて以来、10年ごしの実現となる。だが、今なお学生への周知が徹底しているとは言いがたい。本特集では、2学期制移行の全容を紹介し、私たちの生活がどのように変わるのかを明らかにする。(鈴木拓也、人文学類、二宮健太、社会学類、加藤茂行、地球学類、中島光夫、情報科学類、小串尚也、情報メディア創成学類)

「6学期制」? 本学の2学期制は、他大とは異なり、春学期・秋学期をさらに5週間ずつA、B、Cの「モジュール」に分割する。これにより1年間の授業期間を6分割する(下図参照)。「6学期制」と呼ばれる場合もあるがこれは誤りで、あくまで「6区分の2学期制」(セメスター制)だ。75分10週で1単位、授業時間が75分であるという点も他大と異なる点のひとつ。本学では開学当初から1コマ75分の授業を行っており、75分の授業が10週間で1単位となる。この点は2学期制へ移行後も変わらず、3学期制の遺りを受け継がれる。

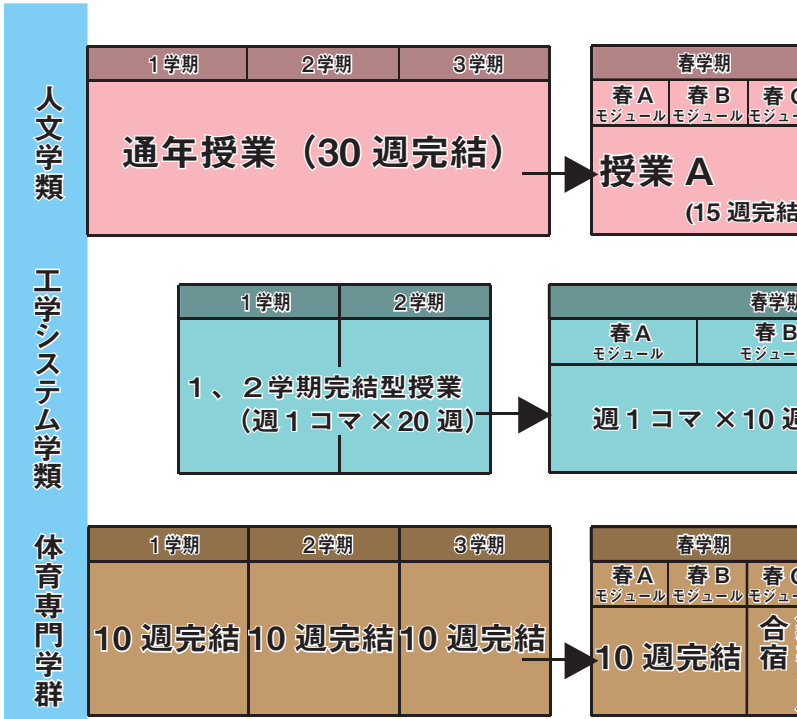
来年度から、多くの授業は10週完結で行われる。原則として、10週完結の授業は春A、秋A、Bモジュールに、15週完結の授業は春B、秋B、Cモジュールに振り分けられる。授業は10週完結で行われる。原則として、10週完結の授業は春A、秋A、Bモジュールに、15週完結の授業は春B、秋B、Cモジュールに振り分けられる。

来年度から、多くの授業は10週完結で行われる。原則として、10週完結の授業は春A、秋A、Bモジュールに、15週完結の授業は春B、秋B、Cモジュールに振り分けられる。

学内行事はどうなる?

これまでの行事日程	移行後の行事日程
5月上旬 春季スポーツ・デー	5月上旬 春季スポーツ・デー
10月上旬 学園祭	10月上旬 学園祭
10月中旬 秋季スポーツ・デー	10月中旬 秋季スポーツ・デー
11月上旬 学園祭	11月上旬 学園祭
11月中旬 秋季スポーツ・デー	11月中旬 秋季スポーツ・デー

2学期制移行に伴い、学内で行われるイベントの日程にも影響が出る見通しだ。学園祭はこれまで、10月上旬の3連休(土、日、体育の日)に開催されてきた。だが、学園祭実行委員会によると来年度は11月2日(土)に前夜祭を、3日(日)、4日(月)、文化の日の振替休日)に本祭を開催する予定だ。前夜祭の実施内容については来年度の執行代



各学類の取り組み

来年度移行の具体的な方針を既に打ち出している工学システム学類、人文学類、体育専門学群の教育課程委員会に話を聞いた。

工学システム学類
工学システム学類では日

人文学類
人文学類では基本的に通

体育専門学群
体育専門学群では、春

夏休み1カ月増える?

来年度移行の具体的な方針を既に打ち出している工学システム学類、人文学類、体育専門学群の教育課程委員会に話を聞いた。

夏休みはこれまで、7月17日(水)に1、2年生向けに説明会を開く。今年度は11月9日(金)から11月16日(土)まで、夏休みが1カ月増える見込みだ。

工学システム学類

工学システム学類では日

来年度移行の具体的な方針を既に打ち出している工学システム学類、人文学類、体育専門学群の教育課程委員会に話を聞いた。

ほぼ変更のない学類も

来年度移行の具体的な方針を既に打ち出している工学システム学類、人文学類、体育専門学群の教育課程委員会に話を聞いた。

ほとんどの学類は11月9日(金)から11月16日(土)まで、夏休みが1カ月増える見込みだ。

夏休み1カ月増える?

来年度移行の具体的な方針を既に打ち出している工学システム学類、人文学類、体育専門学群の教育課程委員会に話を聞いた。

夏休みはこれまで、7月17日(水)に1、2年生向けに説明会を開く。今年度は11月9日(金)から11月16日(土)まで、夏休みが1カ月増える見込みだ。

ほぼ変更のない学類も

来年度移行の具体的な方針を既に打ち出している工学システム学類、人文学類、体育専門学群の教育課程委員会に話を聞いた。

ほとんどの学類は11月9日(金)から11月16日(土)まで、夏休みが1カ月増える見込みだ。

※図はあくまで一例

カリキュラム、行事……。 どう変わる？

学生

■学生の声

一般の学生から話を聞いた。不安の声もある。さらに「必修科目の単位を落とす」といった声も出てきた。2学期制移行のため来年度以降の時間割が変わり、複数の必修科目が同時に終わってしまった。時間割のすり合わせは、授業の実施モジュールを各学期ごとでそろえることで、他

学期制への移行は、教員への負担も少なくない。そこで、本学と統合する前の2学期制であった図書情報大学に1983年から勤務している平賀教授(図情系)に2学期制について話を聞いた。

期待と困惑の声

また、カリキュラム案がクラス代表者会議(クラ代)に届いていない学類もあるという。早めにカリキュラム案をクラ代に伝えて、学生の視点から確認させてほしいと教員も話した。

「モジュールを有効に活用して、今までは一風変わった講義を実施してほしい」と新しい取り組みを期待する声もある。一方で「来年度卒業するの単位が足りなくなる。単位振り替えがしつかりされるかわからない」といった履修や卒業に関する不安も多く聞かされた。

一方、1964年、英のピーター・ヒッグス博士が存在が予想されていた「発見」までの道のりは長かった。物質の基本的な構成要素である原子は、原子核と電子で構成されている。さらに原子核は陽子と中性子で分類されるが、高エネルギーで加速した陽子同士を衝突させれば、陽子を作る素粒子の衝突から、理論上ヒッグス粒子が飛び出すとされる。

教員

■全代会の取り組み

全代会教育環境委員会では「時間割のすり合わせ」の提案を昨年行った。「時間割のすり合わせ」とは、授業の実施モジュールを各学期ごとでそろえることで、他

学期制への移行は、教員への負担も少なくない。そこで、本学と統合する前の2学期制であった図書情報大学に1983年から勤務している平賀教授(図情系)に2学期制について話を聞いた。

図書情報大学は、79年に3学期制で開学し、途中で2学期制に移行。2002年に本学と統合すると同時に3学期制になった。

しかし、「図書情報大学の2学期制とヒッグス粒子は、1964年、英のピーター・ヒッグス博士が存在が予想されていた「発見」までの道のりは長かった。物質の基本的な構成要素である原子は、原子核と電子で構成されている。さらに原子核は陽子と中性子で分類されるが、高エネルギーで加速した陽子同士を衝突させれば、陽子を作る素粒子の衝突から、理論上ヒッグス粒子が飛び出すとされる。

「いずれにせよまずは勉強」



2学期制移行について話す平賀教授

本学の2学期制は大きく違う。本学の2学期制は独特で、2学期制になることが気になる。秋入学の他、90分授業だった。また今回の2学期制のように6つのモジュールに分かれてはいるが、「正直くたてはなかった。一方で、2学期制になることで他大学の大学と休みの時期は勉強してほしい」と語った。

視点

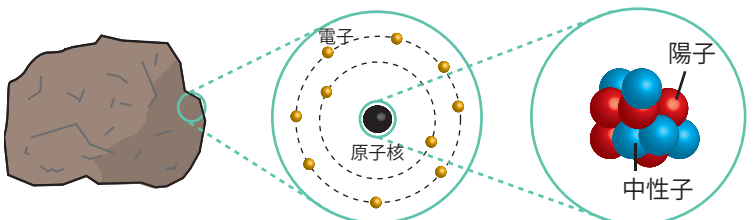
新カリキュラムを学生が作るわけにはいかないが、遅すぎる対応は真に学びたいと思う学生の不安を煽っていると思う。だからといって学類の教育課程委員会が悪いわけでもない。取材の中で、各学類の教員の教育に対する熱意に触れた。教員らは、現在のよさを維持しつつも、移行に合わせて改めるところは改めようとしている。

自分の学びたいという学生の熱意と、学位の標準化をはかりたい社会との摩擦が、2学期制を機に露呈したのかもしれない。という批判が思い出される。

学と地球物理の出身もいます。さすがにこれは珍しいケースですけれど。つまり、広界界の人材はなんでもあり、学歴を問わず、といったところがあります。サントリー時代も、電通などにも仲間も、仕事相手の企業でも、ひとこといえば「仕事ができる」ことがいちばんの条件、それをいっつも感じています。あの意味ではそれは風通しのよさでもあります。

仕事ができることは、仕事を動かせるということ。それをスポーツにたとえれば、自分で進ませることもできるし、的確なパスを回せることもあります。いちばんダメなのは試合時間をむだに消化して仕事をしている気になるところ。これでは「動かす」ことになりません。

原子・原子核の模式図



物質 → 原子 → 原子核

稀だ。今後、物理学では各分野の枠組みを超えた研究が必要になるのは確か。(鈴木拓也|人文学類)

手紙



コピーライター 倉宏さん

広告界で仕事を30年以上にわたりました。新卒でサントリーの宣伝部に就職できたのは、当時コピーライター専門職の採用があったからです。大学では日本文学を専攻。卒業後は万葉集を題材とした小説を書き、コピーライターはことばの仕事ですが、文学専攻が多いかというところでもありません。昨年からこの集中講義「創造学群表」の集中講義「創造学群表」で講師をして、後輩、みなさん、これからは「動かす」ことになりません。

「IMAGINE THE FUTURE」1期生の私が贈ったこのスローガンは「新構想大学」という建学の理念を表したものです。筑波はつねに、日本でいちばん前向きで、のびのびとした、アイデアを育む大学であってほしいと願っています。(昭和52年度 第一学群人文学類卒業)

新しいコミュニケーション創造を

筑波大学 自然図鑑



撮影地=宝篋山

オスの顔面は成熟すると青白みを帯び、それが舞妓さんの姿を彷彿とさせる。アカトンボの仲間の中では比較的小柄で、水辺に近い草むらで大人しくしているのをよく見かける。ヤゴの生育には植生の豊かな池や湿地が必要なので、祇園で本物の舞妓さんとのアカネが共演することは、残念ながら実現しそうにない。(写真・文|武藤将道、生物2年、野生動物研究会)

全日本ジュニア、学生体重別

永瀬、小寺が優勝

講道館杯へ弾み

柔道

20歳以下の柔道日本一を争う全日本ジュニア体重別選手権大会が9月8-9日...

戦い。最後は永瀬が体落として技を奪い勝利。優勝を果たした。

永瀬は大会の予選に当たる関東ジュニア柔道体重別選手権大会でも優勝して...

小林は試合を終え「背負い投げを何度も掛けられたが、一瞬気を抜いたところを同じ技で付け入られた。最後まで集中を切らさぬよう心掛けたい」と話した。

12チーム中7位に

サッカー

第86回関東大学サッカーリーグ戦の後期日程が、9月15日から11月25日にかけて日立市民運動公園陸上競技場(日立市)などで行われている。

前期日程を合わせた総合成績は7勝8敗1引き分けの勝ち点22で、12チーム中7位と苦戦している。

女子は4位、男子は5位

ハンド

関東学生連盟秋季リーグ

場で行われ、男子は5位、女子は4位の結果となった。

は、日本大と引き分け、日体大、早稲田大に敗北するなど不振が続く。

女子は5勝2敗で3位。1位の東京女子体育大、2位の早稲田大などに勝利するも、東海大、日本女子体育大に敗れた。

でチームをリードしたこと が評価された。



シュートを放つキャプテンの川俣

個人賞ではキャプテンの伊東裕希(体専4年)が敢闘賞を受賞した。初戦の明大をはじめ、すべての試合

個人賞では川俣が優秀選手(同1年)が優秀新人賞に輝いた。

個人賞では川俣が優秀選手(同1年)が優秀新人賞に輝いた。

早大に勝利し1位に 日本一へ好調なスタート

ラグビー

関東大学対抗戦

関東大学対抗戦が、9月17日から秩父宮ラグビー場(東京都港区)などで開催されている。

10月14日には早稲田大戦が行われ、雨空にも関わらず多くの観客がグラウンドに足を運んだ。



早大戦でトライを決める本学選手

先制トライを決めた山本は「後半、先制点がほしい場面でも得点できてよかった。まだまだ試合が続くが、10月14日には早稲田大戦が行われ、雨空にも関わらず多くの観客がグラウンドに足を運んだ。

暫定3位に入る

バスケット

男子第88回関東大学バスケットボールリーグ戦が、9月1日から10月28日にかけてつくばカピオ(つくば市竹園)など関東各地で行われている。

10月6-7日につくばカピオで第11戦と第12戦が行われ、多くの観客が訪れた。6日の大東文化大戦では、前半は本学のペースで始まったが、後半に逆転され、70-82で敗れた。

7日は明治大と対戦。第1ピリオドから明大のディフェンスに苦しむが、インサイドやアウトサイドからバランスポイントを重ね、5点リードし前半終了。後半開始直後に本学が一気に流れを引き込み、開始2分で砂川貴哉(体専4年)のゴール下からの得点と星



大東文化大戦でシュートを決める本学選手

野拓海(同)の3Pシュー トで点差を10点に引き離す。その後も3Pシュー ト、バスケットカウントや連続得点が効果的に決まった。明大を一切寄せ付けず、終盤はベンチメンバーで戦い、79-62で快勝した。(関連写真12面)

女子は2勝3敗で4位 男子は1勝4敗で5位

バドミントン

関東大学秋季リーグ戦

関東大学バドミントン秋季リーグ戦が9月15-23日にかけて、日本体育大学健志台キャンパス米本記念体育館(横浜市青葉区)で開催された。

戦目の日本体育大戦まで黒星が続く。しかし5戦目の明治大との対戦では3-2で勝利し、6校中5位という結果に終わった。

個人賞では川俣が優秀選手(同1年)が優秀新人賞に輝いた。

個人賞では川俣が優秀選手(同1年)が優秀新人賞に輝いた。

留学生の目

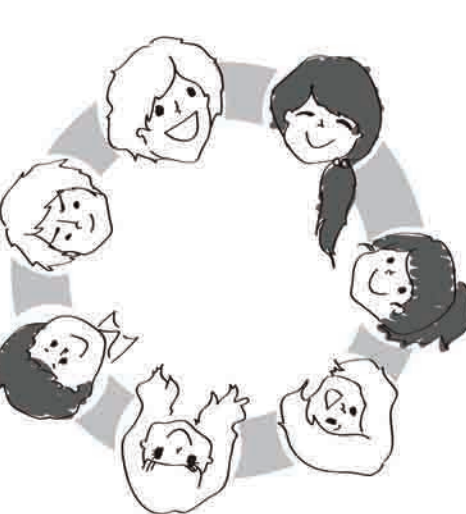
キム・イジン



最初、「留学生の目」という欄に何か書いてもらえませんか?と頼まれた時に、最初思ったのは、「留学生の目」という名で何を求められているかでした。なぜでしょう、「留学生」という言葉は、よく考えてみると、そもそも私はなぜ韓国、または、日本人にならなければならないのでしょうか。そこから疑うべきではないかと思ふようになったのです。最近、韓国のニュー

スで、「日本の原子力発電所の近くで取れた魚が奇形だったけど、それを韓国に輸出してしまっている」といった内容を見

「私も一心」留学生の中に含まれるわけですが、日本は私にとって外国ではありません。というのは、私は父が韓国人で母が日本人、つまり、ハーフです。それで、日本は母の国でありながら、自分の国でもありません。でも、国籍は韓国国籍で生まれ育ったのも韓国、日本語も外国語を習う時のように学びました。そうすると、あなたは韓国人なの日本人なのと言われてもよく分かりませんね。



みんな運命共同体

留学生生活というのは、楽しい時もありますが、やはりつらいことも多いです。短く留学するのではなく、長年過ごしている、どうして自分と異なる存在だと感じて気がささいしてまづこともありますが、それでも、同じことを経験しながら生きていくのです。そういうふうにして自分が気づかなかったところで、似ている面を見つけて喜ぶ人、そういう人を留学生と呼ぶのではないのでしょうか。今日も、みんな運命共同体なんだと自分に言い聞かせているのです。(比較文化学類 原文も日本語)

◆杉村大蔵氏講演会
杉村大蔵元衆議院議員(体育専門学群出身)による講演会「これからの日本」が7日、1D棟201で開催された。会場には開演前から多くの人が詰めかけ、杉村氏が登壇すると拍手が沸き起こった。

時代のエピソードでは、谷垣前首相自民総裁とのやり取りなども語られ、観客から笑い声が上がった。講演の最後に杉村氏は「人生は分らないものだが、201で開演された。会場には開演前から多くの人が詰めかけ、杉村氏が登壇すると拍手が沸き起こった。

◆JAXA講演会
独立行政法人宇宙航空研究開発機構(JAXA)の遠藤祐希子さん(宇宙環境利用センター・平成17年度)が7日、3B棟213で行った。TEDは「広める価値のあるアイデア」を世界に紹介することを目標とした米国の団体。さまざまな分野の著名人を招いた大会を年2回米国で行っている。今回はTED本部から、プレゼンを行った。

◆特別講演会「礼法はいかに伝えられたか」
綿抜豊昭教授(図情学系)による特別講演会「礼法はいかに伝えられたか」が8日に中央図書館集会所で開催された。今回の講演会は附属図書館特別展「明治時代に

講演会の前回は同教授で書いただけでは分からない部分があり、それを説明する挿絵や錦絵、すくくといった視覚資料が重要な役割を持っていた」と綿抜教授は話した。

後半は貴重書展示室で綿抜教授による各資料の説明と来場者との懇談が行われた。来場した本学卒業生の女性は「錦絵やすくくなどの資料があり、目で見て理解しやすかった。礼法教育がなくなってしまうのはもったいないと感じる」と話した。

◆TEDxTSUKUBA
つくば市周辺で活躍する5人が、それぞれの活動について英語でプレゼンした。TEDxTSUKUBAが7日、3B棟213で行われた。TEDは「広める価値のあるアイデア」を世界に紹介することを目標とした米国の団体。さまざまな分野の著名人を招いた大会を年2回米国で行っている。今回はTED本部から、プレゼンを行った。

◆バイオエカフェ
科学に関する話題を、コーヒーなどの飲み物を片手に気軽に話す「バイオエカフェ」いきものほっかが、8日に第二エリア食堂で行われた。

◆つくばからアイデアを発信
つくば市でアートスクールを主宰する現代美術

講演会の前回は同教授で書いただけでは分からない部分があり、それを説明する挿絵や錦絵、すくくといった視覚資料が重要な役割を持っていた」と綿抜教授は話した。

後半は貴重書展示室で綿抜教授による各資料の説明と来場者との懇談が行われた。来場した本学卒業生の女性は「錦絵やすくくなどの資料があり、目で見て理解しやすかった。礼法教育がなくなってしまうのはもったいないと感じる」と話した。

講演会の前回は同教授で書いただけでは分からない部分があり、それを説明する挿絵や錦絵、すくくといった視覚資料が重要な役割を持っていた」と綿抜教授は話した。

テーマは 筑波協奏

◆院生プレゼンバトル
大学院生が自身の研究をプレゼンテーションする力を競う「院生プレゼンバトル」が8日、大学会館ホールで行われた。



院生プレゼンバトルの授賞式の様子

自身の研究をプレゼン

総合1位を獲得した池松「ミラクリン」とよばれる

会場を訪れていた本学の女子学生は「プレゼンターの聴衆をひきつける工夫がすごかった。自分もこのように話し方ができるようになりたい」と話した。

◆つくばからアイデアを発信
つくば市でアートスクールを主宰する現代美術

◆バイオエカフェ
科学に関する話題を、コーヒーなどの飲み物を片手に気軽に話す「バイオエカフェ」いきものほっかが、8日に第二エリア食堂で行われた。

◆つくばからアイデアを発信
つくば市でアートスクールを主宰する現代美術

講演会の前回は同教授で書いただけでは分からない部分があり、それを説明する挿絵や錦絵、すくくといった視覚資料が重要な役割を持っていた」と綿抜教授は話した。

後半は貴重書展示室で綿抜教授による各資料の説明と来場者との懇談が行われた。来場した本学卒業生の女性は「錦絵やすくくなどの資料があり、目で見て理解しやすかった。礼法教育がなくなってしまうのはもったいないと感じる」と話した。

講演会の前回は同教授で書いただけでは分からない部分があり、それを説明する挿絵や錦絵、すくくといった視覚資料が重要な役割を持っていた」と綿抜教授は話した。

来場者の質問に答える谷口准教授

Who's Who?

ロンドンパラピック 50m自由形 4位入賞

山田 拓朗 さん (体専3年)



プールを背に静かな微笑みを浮かべる山田選手

「スタジアムに入った瞬間、鳥肌が立った。いよいよパラリンピックが始まるんだと感じた。そう語るのは山田拓朗(体専3年)さん。8月のロンドン

「スタジアムに入った瞬間、鳥肌が立った。いよいよパラリンピックが始まるんだと感じた。そう語るのは山田拓朗(体専3年)さん。8月のロンドン

「サポート役を任せられたのは大会前日。旗手の木村選手と同じ水泳競技であることから白羽の矢が立った。全員の彼らの背中を立ち、声で案内をしながら堂々の行進。大舞台にも関わらず緊張した様子を見せず、会場の雰囲気を楽しむ姿が印象的だった。日本選手団の「顔」を見事に務めた。

パラリンピックで堂々の行進 集中力武器に世界で戦う

この感覚が気持ちいいし、緊張している方がいい記録が出る」と語る。13歳という当時最年少の若さでアテネパラリンピックに出場してから、今回で3度目。泳いでいる時は歓声も耳に入らない。目の前のレースへの集中力こそ、彼の真骨頂だ。

本学に進学し、水泳部に入ったことで環境が大きく変わった。水泳部の活動は選手主体で、他選手の頑張りやアドバイスが何よりの刺激になる。「何か大きなことを成し遂げるためには変化が大切。新しい環境で何かにチャレンジする」といふ。新しい発見がそこにあるかもしれない。他選手は全員健常者だが、周囲との差を感じたことは無いという。むしろ「障害を持った選手を見てみると、大きな可能性や、限界の無さを感じさせられる」と語る。

「次号は12月3日(月)発行予定です」

編集後記

学園祭2日目、日と共に憧れの「ゲイバー」に赴きました。濃厚なテイタチに歓迎され、日も私に至福のひと時をすごしました。他にも今まで紙面で紹介してきたサークルの発表や展示を見かけ、ついつい声をかけてみたくなりました。

オリエンテーリング大会開催



秋風の中、学内を駆け抜ける参加者

5面へ

男子関東バスケットリーグ戦



多くの観客が訪れ、会場は明るい青に染まった

8面へ

第38回学園祭「筑波協奏」



学園祭が行われ、約3万人が訪れた

10・11面へ

ビブリオバトル決勝戦



学園祭のビブリオバトルで本を紹介するプレゼンター

11面へ

学生生活

スポーツ

学園祭

学園祭